ら言上仕ります。広島に存じ奉ります。早速なが さぁより、毛利御本家三 風に再現してみよう。 家老の首級を尾張大納言 ば拝し奉り、恭悦至極に 幹へ会っている。最初の て御尊藩御家老吉川勇記 会見を史料をもとに小説 一度岩国を訪れ、

京日を 「岩国さぁの御尊顔を

緑地帯

(征長総督徳川慶勝)さ

ものやと考え、尾張大納はんでごわんど」

の裁断によって実現の運

第3席受賞者=広島市

高遠

信次

は厳刑に処し、さらに山 ぁに差し出し、参謀諸士 はいかなる御存念による かるにいまだに何ひとつ をば片時も早く差し出さ うが、当家は毛利御本家 え進軍を猶予していただ 不都合のことに相成って か、その訳を申そう。そ って、おそれながらと御 て、長藩は恭順を示すゆ 領外へ動座をお願いし 口へおらるる五卿さまは として実行に移されぬの れ、参謀を御処置いただ の末家である。しかるに きたいと聞きもした。し 幕末の岩国の 地へ罷り越した次第でご一言さぁの内命により御当 おいもす。三家老の首級 の方も知っているかと思 かねば、成る話も成いもその三点はみな、御本家 及ばれんので、はなはだ 罪の儀を何ひとつ実行に わす。御本家が御悔悟謝 西郷隆盛来たる を実行に踏み切らぬの らばなぜ長藩がその三点 のを、経幹は見た。 西郷の目が炯々と光る 「あいわかった。しか 梨の礫ところか、すでにおったが、征長軍からは え、そのままにしておい のいずれからか進軍猶予 ならびに尾張大納言さま る。ゆえに芸藩・御貴藩 びに至る事ばかりであ 御出師されたと聞いたゆ を承知した旨の回答を待 尾張大納言さまは大坂へ 本家へ願い出るつもりで 参謀斬首に留め、毛利父の責任を三家老切腹と四 が征長軍にあるかのよう 力を、やがて西郷は受け 止めようとする経幹の努 子へ累が及ばずに征長を に言い張った。 (第39回中国短編文学賞 禁門の変での武力衝突 経幹は一歩も引く気は